

第65回 Hokkaido MSW Association 北海道医療ソーシャルワーク学会



大会
テーマ

ソーシャルワークに愛を込めて
～すべての人に健康と福祉を～

日程

2022年7月9日（土）9：50～18：00

開催

オンライン開催

（Zoomウェビナー・Zoomミーティング）

申込フォーム



学会長：阿部 綾子（函館脳神経外科病院）

基調講演：江崎 禎英（社会政策課題研究所）

特別講演：西垣 千春（神戸学院大学 社会リハビリテーション学科
総合リハビリテーション学部）

講 談：荒到夢形（こうとうむけい）（函館の講釈師）

主催 一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会
後援 函館市、函館市医師会

第65回 北海道医療ソーシャルワーク学会 参加方法について

○北海道医療ソーシャルワーカー協会の会員の方

- ・本学会には参加の申し込みはありません。
- ・参加費用は無料です。
- ・すべての会員に抄録集を配布します。
- ・抄録集には、学会ホームページの URL と QR コード、入室パスワードを掲載しています。
- ・本学会ホームページに ZOOM ウェビナーの URL を掲載しています。当日はそちらからご参加ください。集い企画以外は、上記 URL でいつでも参加が可能です。
- ・集い企画（14：30～15：30）は ZOOM ミーティングにて行います。各集いの URL とパスワードも学会ホームページに掲載しています。そちらを参照の上入室してください。

○上記以外の方

- ・下記の協会ホームページの申し込みフォームより参加申し込みをしてください。
- ・参加費は3,000円です。
- ・申し込まれた方に、抄録集を送付しております。
- ・当日の参加方法は、上記と同様です。

○北海道医療ソーシャルワーカー協会 URL <https://www.hmsw.info/>

○学会申込フォーム QR コード



<お問い合わせ先>

一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 事務所

電話：011-211-1310

（平日 月曜～金曜9：30～16：00）

メール：mswjimusyo@hmsw.info

第65回 北海道医療ソーシャルワーク学会

大会テーマ「ソーシャルワークに愛をこめて」

～すべての人に健康と福祉を～

学会趣旨

2015年の国連サミットで採択されたSDGsは「誰一人取り残さない持続可能な多様性と包摂性のある社会の実現」を目的に2030年を目途として17の大きな目標を定めたものである。その中の3番目にはあらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を推進することが掲げられ今や全人類のミッションの一つとなっている。

私たち医療ソーシャルワーカーはSDGsが謳われるはるか前から「誰一人取り残さない、すべての人に健康と福祉を」と日々奮闘し実践してきたのではないだろうか。ようやく世界全体が環境や経済と横並びに福祉のあるべき姿を捉え出した今、私たちの実践は決して間違っていないと後押しされたといってもいいだろう。

一方コロナ禍によって、開発目標の進捗が遅れることが懸念される中、2021年4月に「ソーシャルワークと国連のSDGsに係るIFSWのポリシーペーパー」(http://www.jasw.jp/news/pdf/2021/2021_ifsw-sdgs.pdf)が発行された。

そのような考え方が理想で終わることのないよう、私たち医療ソーシャルワーカーはクライアントに真正面から「愛」を持って向かい合っていかななくてはならない。クライアントの抱える問題が多様化していくなかで、またコロナ禍によって生活様式の変容が余儀なくされさらなる苦境に立たされる中、通り一遍の表面的な関わりや自己の効率化だけを優先させるなど支援をしたつもりにはなっていないだろうか。今学会ではあらためてソーシャルワークを見つめ直し、強い協働関係によりソーシャルワーク支援を持続させること、持続可能な社会の実現にむけた戦略的なソーシャルアクションを起こすことができるかを考え振り返る機会としたい。

主 催	一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会
開催主管	一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部
日 程	2022年7月9日(土) 9時50分～18時00分
開催方法	オンライン・オンデマンド開催 (Zoom ウェビナー・Zoom ミーティング)
後 援	函館市、函館市医師会
学会長	阿部 綾子 (北海道医療ソーシャルワーカー協会理事、函館脳神経外科病院)

スケジュール（2022 年 5 月 20 日現在）※変更する場合があります。

オンデマンドの期間等は後日お知らせいたします。

9：50 (10 分)	開会 オンライン オンデマンド	開会挨拶 木川幸一（北海道医療ソーシャルワーカー協会会長） 阿部綾子（学会長）
10：00 (90 分)	基調講演 オンライン オンデマンド	講師：江崎 禎英（よしひで）（社会政策課題研究所） 「人生 100 年時代」の幸せのかたち ー コロナの先にある健康長寿社会の実現に向けて ー 座長：中里 智彦（国立病院機構函館病院）
11：40 (60 分)	ブレイクタイム 講談 録画配信 オンデマンド	講釈師：荒到夢形（こうとうむけい）（本名：荒井到（いたる）） 一．解説「落語と講談」 二．講談「グロード神父伝～旭ヶ丘の夕日～」 座長：阿部 綾子（函館脳神経外科病院）
12：50 (90 分)	特別講演 オンライン オンデマンド	講師：西垣 千春（神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科教授） 「健康を支える」～誰一人取り残さないために～ 座長：宇美 一洋（北海道社会事業協会函館病院）
14：30 (60 分)	集い企画 オンライン	5つの「集い」
15：40 (120 分)	演題発表 オンライン オンデマンド	7 演題 座長：田澤 愛子（八雲総合病院） 座長：山本 亮（日鋼記念病院）
17：45 (10 分)	閉会 オンライン オンデマンド	閉会挨拶 廣瀬量平（運営委員長）

演題発表（当日ウェビナー、後日オンデマンド）

座長 田澤 愛子（八雲総合病院）・山本 亮（日鋼記念病院）

演題 1. 保科 健（斗南病院）

勤務評価制度との連動によるキャリアラダー・モデルの活用効果～2年間のデータから

演題 2. 村井 梨奈（手稲溪仁会病院）

面会制限により適確な患者像を把握できない家族への支援に関する2事例の比較研究

演題 3. 畑中 愛莉（小樽中央病院）

新人医療ソーシャルワーカーの面談展開に関する一考察

演題 4. 米谷 奈子（独立行政法人国立病院機構函館病院）

心不全患者を地域で支える～循環器疾患地域連携推進フォーラムの取り組み～

演題 5. 玉川 侑那（北海道大学病院）

小児高次脳機能障害の自己決定およびレジリエンス獲得までのプロセスについて

演題 6. 小柄 華奈江（浮き雲在宅クリニック）

若年末期がん患者が最期まで在宅で療養するために、MSWが行える支援とは？

演題 7. 田村 秀人（北海道中央労災病院治療就労両立支援センター）

北海道内の病院における治療と仕事の両立支援の取り組みに関するアンケート調査

基調講演「人生 100 年時代」の幸せのかたち
ー コロナの先にある健康長寿社会の実現に向けて ー



講師：
社会政策課題研究所 所長
岐阜大学客員教授及び藤田医科大学教授 兼務
江崎 禎英（えさき よしひで）
岐阜県出身 昭和 39 年生

東京大学 教養学部 教養学科 国際関係論 卒業

平成元年、通商産業省に入省。日米通商問題に携わった後、大蔵省に出向し金融制度改革を担当。その後、通商産業省にて店頭市場改革（ベンチャー企業育成）、外為法改正に取り組む。英国留学、EU（欧州委員会 DGIII）勤務を経て、通商産業省に戻り IT 政策を担当。この間、内閣官房にて個人情報保護法の立案に参画する。その後、経済産業省にて、ものづくり政策、外国人労働者問題に携わり、平成 17 年から資源エネルギー庁エネルギー政策企画室長として地球温暖化問題を担当。平成 20 年から岐阜県庁に出向し、商工労働部長を務める。平成 24 年に経済産業省に戻り、生物化学産業課長として再生医療を巡る法制度の改革に携わったのち、ヘルスケア産業課長を経て、平成 29 年から商務・サービスグループ政策統括調整官及び内閣官房健康・医療戦略室次長を務め、平成 30 年には厚生労働省医政局統括調整官も併任。令和 2 年 7 月に内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）に就任。同年 11 月に依願退職。令和 3 年 3 月社会政策課題研究所を設立し所長に就任。岐阜大学客員教授及び藤田医科大学教授を兼務。著書に「社会は変えられる～世界が憧れる日本へ～（国書刊行会）」がある。

以 上

「人生 100 年時代」の幸せのかたち
ー コロナの先にある健康長寿社会の実現に向けて ー

日程：7 月 9 日（土）10：00～11：30（90 分）

座長：中里 智彦（国立病院機構函館病院）

・講演時間 10：00～11：10（70 分）

・質疑応答 11：10～11：30（20 分）

経済が豊かになり誰もが健康で長生きすることを望めば、社会は必然的に高齢化します。私たちが取り組むべきは、単に財政逼迫に起因する社会保障制度の見直しに止まらず、人口構造の変化や主たる疾患の性質の変化を踏まえて「社会経済システム」そのものの見直しを行うことです。

ヒトの生物学的な寿命は約 120 年とされています。「還暦」とは暦が 1 周したという意味であり、暦が 2 周する 120 歳は「大還暦」と言うのです。仮に全ての人々が 120 歳まで長生きし、人口構造が安定した理想の長寿社会では、高齢化率は約 46%になるのです。つまり、高齢化の進展は決して悪いことではなく、誰もが健康長寿を望みそれが実現した場合の必然の結果なのです。

日本の社会保障制度は、戦後復興・経済成長期に基本設計がなされており、「国民皆保険制度」は、結核に代表される感染症が死因の上位を占めていた時代に整備されたものです。その後、経済成長に裏打ちされた社会保障の拡充や国民皆保険に支えられた先進的な医療技術の導入・普及は、結果的に、自立して生活できない虚弱なお年寄りを大量に生み出すことになりました。

人生 100 年時代と言われる今日、如何に最期まで幸せに「生ききる」かが重要なテーマであり、誰もが夫々の年齢や体力に応じて社会の一員としての役割を果たすことが出来る「生涯現役社会」を構築することが求められます。そのためには、いわゆる「生産年齢」の段階から、経営者や従業員に健康管理への取組みを促すとともに、年齢が進むにしたがって多様化する「健康需要」に対応するためのサービスを創出し、地域資源を活用しながら地域の実情にあった供給体制を整えていくことが必要です。

人生 100 年時代の医療・介護では、「病氣にならないよう健康管理に努め」、「仮に病氣になっても重症化させず」、「治療や介護が必要になっても社会から切り離さない」ことが基本となります。こうしたサービスの提供には、公的保険だけでなく、民間による公的保険外サービスの充実が不可欠です。また、生涯を通じた健康医療介護情報システムの構築なども必要でしょう。

これら一連の取り組みを通じて、超高齢化社会のあるべき社会経済システムを再構築し、新たな産業群を育成することが、時代の転換期にある日本社会の課題なのです。

函館の講釈師

こうとうむけい
荒到夢形



演者略歴：本名 荒井 到（あらい いたる）

秋田生まれ。主に東京で育つ。室蘭清水ヶ丘・美幌・函館東・釧路北陽の各高校で教員を勤めた後、定年前に退職**(悪い事をしたわけではない)**。2002 年神田愛山主催講談作家教室修了。翌年初高座。函館の落語家東家夢助の門下となり、地域に根差した人物や歴史を講談にして世に問う活動始める。

演目

一. 解説『落語と講談』

座蒲団に座り、膝を折ってお話をする点で落語と講談は同じです。寄席でも共に演じられることが多いのですが、実はご先祖様が違いまして・・・

実演を交えて講談とはどういうものかを説明申し上げます。

二. 講談『グロード神父伝～旭ヶ丘の夕日～』

昭和45年、函館市では特別養護老人ホームの必要性が高まっておりました。しかしどのようなものが良いのか具体的なものがございませんでした。

そこでグロード神父が立ち上がります。「老齢期は人生最大のバカンス」との

考えの下、仲間と共に理想のホームを考えて行きます。

特別講演

「健康を支える」 ～誰一人取り残さないために～



講師:

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科 教授
学生の未来センター 所長
西垣千春(にしがき ちはる)

略歴:

1981 年関西大学社会学部卒業。大阪大学大学院医科学研究科修士課程修了、同医学研究科博士課程修了、医学博士(1988 年、大阪大学)。1989－1991 年大阪大学医学部助手、1998－2005 年四天王寺国際仏教大学人文社会学部助教授を経て、2005 年より現職。

主な研究課題:

地域保健福祉活動
生活困窮の原因と予防 等

主な出版書籍:

『SDGs 時代の ESD と社会的レジリエンス』、分担執筆、筑波書房、2020 年
『大都市における高齢者の生活破綻の現状と課題』、特集「超高齢社会―大都市高齢者支援の課」、公衆衛生、第78 巻第9号、p601－p605、2014 年
『家族機能低下と在宅医療～大阪の実情を中心に～』、大阪保険医雑誌、No. 570、2014 年 3 月号、p10－p14、2014 年
『老後の生活破綻 身近に潜むリスクと解決策』、単著、中公新書、2011 年 等

現委員活動等:

- ・神戸市市民福祉調査委員会計画策定検証会議 座長(2019 年－)
- ・八尾市介護保険運営協議会 副会長(2016 年－)
- ・神戸創生懇和会委員 委員(2015 年－)
- ・神戸市市民福祉調査委員会 委員 (2012 年－)
- ・大阪府社会福祉協議会社会貢献事業(生活困窮者レスキュー事業) スーパーバイザー(2004 年－)
- ・八尾市地域包括支援センター運営協議会 会長(2000 年－)

「集い」～南支部より MSW に愛と敬意を

コロナ禍の昨今、私たち MSW 間の関わりも環境に合わせて変貌を遂げています。MSW 間での交流の場も減り、以前のような職場を超えた関係も驚くほど少なくなってしまったことを誰しもが実感していることと思います。

道学会初企画！！

そこで本学会では『MSW 間の繋がり』にスポットを当て、日々の悩みや将来を語り、互いに尊重し合いながら MSW として、人としての成長の一助になっていけたらと考えています。

さて、「集い」の構成は、各テーマに対して適任と判断された各支部からの選抜者 3 名によるトークセッションとなります。参加者は 5 つのテーマから「興味のある集い」を選び、傍聴することができます。

なお、参加者は各集い間の移動も可能ではありますが、定員超過による入室制限が生じる場合もありますので、ご了承ください。

5つのメインテーマ

今を煌めくフレッシュワーカーの集い

－悩み・不安・思いを分かち合おう－

【コメンテーター】20 代または経験年数 3 年未満のワーカー

【注目点】フレッシュワーカーが今、抱える悩み、不安、思いを語り合う。それらを解消、肯定し、明日から新たな一歩を踏み出せる、そんな集いにしたい。
また、多世代がフレッシュワーカーの今を知りたいとのニーズにも対応しています。

それぞれのワークライフバランス

#趣味 #人 #繋がろう

【コメンテーター】年齢、経験年数不問

【注目点】仕事以外の人柄にも着目したヒューマンドキュメンタリー。コロナ禍の生活において、人との繋がりに何を求め、何を得ていますか？
広義でコメンテーターの人間ドラマを上映します。

協会を辞めようと考えているかも・・・

－子育て世代ワーカー集まろう－

【コメンテーター】子育て世代ワーカー

【注目点】協会を辞めようと思ったことはありますか？なぜ？を聞いてみたい。仕事、家庭、そして協会活動という環境に置かれた子育て世代ワーカーの声を聴き、仕事とプライベートの両立や今後の協会のあり方について、一緒に考える機会にしたい。

頑張ろうぜ！板ばさみワーカー

中間管理職 # 共感 # 励まして

【コメンテーター】30代または経験年数10年程度のワーカー

【注目点】中間管理職の日々の苦労ややりがいについて意見交換する。上下左右がよく見える視野を手に入れたその先にあったものを共有し、中間管理職という立場を楽しむ気持ちを獲得したい。

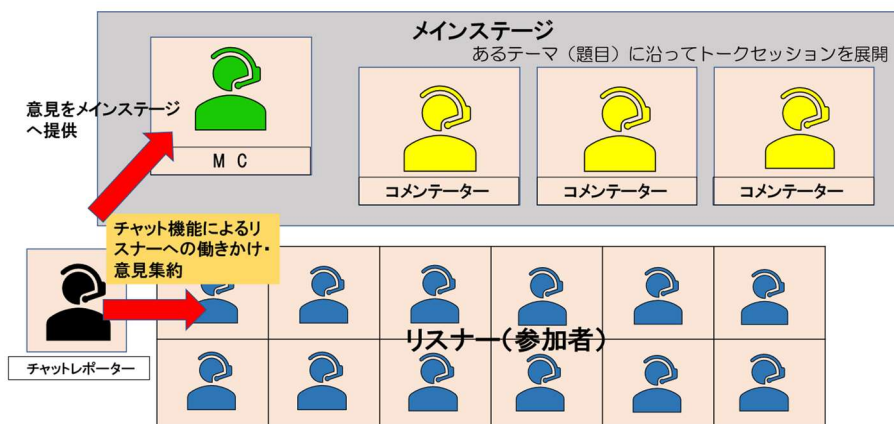
今『も』煌めくワーカーの集い

－続ける秘訣とは－

【コメンテーター】40代～50代または管理職

【注目点】昭和、平成、令和の時代におけるソーシャルワーカーとしてのモチベーション、姿勢の変化を共有したい。そして、ソーシャルワーカーの未来を共に考えたい。

【当日のイメージ】



Instagram

でもフレッシュな情報をお届けしますので、フォローをお願いします！

